

## 2023(令和 5)年度 第 5 連区「仏教壯年会セミナー」(熊本)に参加して

長崎教区仏教壯年会連盟理事長

仏教壯年連盟長崎教区評議員

園田祥隆

1990(平成 2)年から 1995(平成 7)年まで続いた雲仙岳の噴火活動には、自然の凄まじさと恐ろしさを思い知らされた。この時、消防団として活動された仏社会員の方もいると聞く。38 回の土石流、7 回の大火碎流によって、負傷者 12 人、行方不明 3 人、死者 41 人、建物被害は 2,511 件、被害総額は何と 2,299 億 4,197 万円におよんだという。この大惨事から約 200 年前の 1792(寛政 4)年には「島原大変肥後迷惑(しまばらたいへんひごめいわく)」と伝承される大災害が起こっていたのだ。死者は 1 万 5,000 人にのぼる、日本史上最大規模の火山災害である。

<島原大変肥後迷惑>とは、

江戸時代の 1792 年 5 月 21 日 (寛政 4 年 4 月 1 日) に肥前国島原(現在の長崎県)で発生した雲仙岳の火山性地震およびその後の眉山の山体崩壊 (島原大変) と、それに起因する津波が島原の対岸の肥後国(現在の熊本県)を襲ったこと (肥後迷惑) による災害である。

出典：フリー百科事典『wikipedia』

セミナー当日、2023(令和 5)年 11 月 3 日(金)。8:40 セミナーの会場である熊本教区教務所まで車を出してくれる予定の A 氏より、少し遅れるとのメールが…。8:43 忘れ物に気付き、取りに帰りますとのメールが…。9:18 10 時半ごろになりますとのメールが…。車が混んでいたとみえて集合場所の JR 佐世保駅には 10:50 に到着。急いで車に乗り込み熊本に向けて出発。当初の予定では、9:30 に JR 佐世保駅で待ち合わせ、途中昼食を済ませて、余裕を持って現地に入るはずであったのだが…。1 時間 20 分の遅れの「大変」な事態に…。実は私には前科があるのだ。それは、A 氏と一緒に参加した、あの「第 24 回全国仏教壯年大会」の時のことだ。大会前日の 4 月 14 日、集合場所の長崎空港へ自宅のある佐世保より車で向かっていたのだが、途中で忘れ物に気付き、自宅に引き返すために…。集合時間の 8:10 には間に合わず 10 分ほど遅刻。大失態を犯してしまった。そういうこともあって、A 氏の心中察するに余りある。さて、車は「西九州自動車道」から「長崎自動車道」へ。鳥栖ジャンクションにて「九州自動車道」へ合流。祝日のせいか混んでいてスピードに乗れない。北熊本で高速道を降り、一般道へ。昼食は、コンビニにて A 氏お勧めの「カツサンド」を調達、車の中でかきこむ。これが意外にうまい。「熊本教区教務所」到着は、開始 10 分前の 13:20。何事もなかったような顔で会場内へ。「大変」ではあったが、皆さんに「迷惑」とな

らなかつたので良しとしよう。

「大変」の原因となつた A 氏の忘れ物とは…、「袈裟(けさ)」。いつ忘れたことに気付いたかというと「袈裟」だけに「今朝(けさ)」。

それはさておき、今回のセミナーのキーワードは「交流」。「熊本組 廣徳寺仏教壯年会」、「天草上組 観乗寺仏教壯年会」、「小国組仏教壯年会」の三組の方が事例を発表された。共通しているのは、仏教婦人会等の他団体との交流を積極的に行っていることだ。天草上組 観乗寺仏教壯年会の方からの「私は仏教婦人会に入っています」との発言に一瞬どよめきが…、そして笑いが…。このお寺は、寺院の活性化のため、盆提灯の飾り付けを行っているとのことだが、竿の組み立ては男性、提灯を紐で竿に括り付けるなどの仕事は女性。と、役割を分担して和氣あいあいと作業を行っているとのことだ。一人でも多くの方々がお寺にこられるようにとの共通意識でもって活動されていることに頭が下がる。そして、このセミナー参加者の中に女性の姿が。人吉別院から仏壯の会長として来られたとのこと。「壯年」は男性だけではないと知つていながらも、やはりこれにはびっくり。新たな形態に、なにか可能性が感じられる。時代や形態は変わつても朋友の輪を広げ、念佛の輪を広げることが肝要であろう。

最後に今回の講師 大松龍昭先生が凄い。何が凄いかというと、「ルービックキューブ」だ。色を揃え六面完成。短時間に、しかも話をしながら…。凄すぎ。「ルービックキューブ」に気を取られて、講義の内容はさっぱり忘れてしまったが…。

南無阿弥陀仏 合掌